

人、音楽、自然——日本フィルのテーマです。

JAPAN  
PHILHARMONIC  
ORCHESTRA

—— 創立指揮者 渡邊暁雄 ——

# 日本フィルハーモニー交響楽団 こんな活動をしています

(2022年度活動報告)

*Triptyque*  
トリプティック

Vol.18

日本フィルハーモニー交響楽団 〈こんな活動をしています〉

2022年度活動報告

【Triptyque トリプティック第18号】

編集・発行 (公財)日本フィルハーモニー交響楽団 2023年7月  
〒166-0011 東京都杉並区梅里1-6-1 TEL.03-5378-6311 www.japanphil.or.jp office@japanphil.or.jp

## JAPAN PHILHARMONIC ORCHESTRA

公益財団法人 日本フィルハーモニー交響楽団  
〒166-0011 東京都杉並区梅里1-6-1 TEL.03-5378-6311  
<https://www.japanphil.or.jp>



「Welcome クラシック」日本フィルのミニ番組  
毎週水曜日 22:54~23:00 放送中!!

チケットご予約・お問い合わせ  
[日本フィル・サービスセンター]  
TEL.03-5378-5911 (平日10時~17時)  
eチケット♪ <https://eticket.japanphil.or.jp>



公式 Twitter  
@Japanphil



公式アカウント



# 2022年度活動の概要

## ご挨拶

2022年度はコロナ規制が徐々に解除され、特に後半は元に戻ったように見えたが、3年間にわたって楽団が受けた毀損(芸術面、コミュニケーション面、財政面)は大きく、時間をかけ通常に戻していかねばなりません。とはいえ、この年は翌年(2023年)9月にバトンタッチが行われる首席指揮者、ピエタリ・インキネンとカーチェン・ウォンが活躍した心踊る年となりました。そして来日が出来なかったアレクサンドル・ラザレフに替わって指揮をとっていただいた秋山和慶、フランソワ・ルルーの名演は大切な力をいただく印象的なものでした。そして、日本フィル指揮者陣の演奏に芸術面での着実な回復を感じました。更に、「夏休みコンサート」全公演完売、「九州公演」の近来にない売れ行き等は、コロナ禍からの解放感が一気に広がった結果だったように思います。

一方、馴染みのない作品に対する関心を甦えらせるまでは至らず、入場者数の二極化が生じたのは残念です。

日本フィルの社会からの要請に応える「社会性活動」も少しずつ回復に向っています。「東北の夢プロジェクト」も岩手県で3年目、福島県でもスタートを切ることが出来ました。共感覚的な身体性を演出する落合陽一×日本フィルのプロジェクトも6年目を迎えました。あらゆる人々へ、世代へ、地域へ、世界へと音楽を届ける活動の数々が再開を始めました。

2022年度のトップニュースは「被災地に音楽を」の活動が「後藤新平賞」を受賞した事です。「心の復興を支援しようと被災地における演奏活動を継続し11年間で300回を超え、今後も続ける活動は後藤新平の奉仕の精神と人材育成に対する高い志に通ずる」と選ばれました。打ち上げ花火ではなく線香花火を楽しむ、残りの小さな火玉が消え去る

迄見入るように「被災地に寄り添い、志を忘れない、今を伝える」を愚直に実践して来た事に、光をあてていただいた事、感謝の気持ち一杯です。今回の受賞を機に被災地での「点」での活動、東北の夢プロジェクトでの「面」での活動を通し、子供たちの笑顔を中心に置いた復興の後押し、復興の裏にある課題にも目をそらさず、「音楽家に何が出来るか」を再び問い、さらに進んでまいります。

もう一つご理解を願わなくてはならない問題があります。桂冠指揮者兼芸術顧問アレクサンドル・ラザレフの来日問題です。

2022年2月24日、ロシアのウクライナ侵攻で始まった戦争により同氏の来日が難しくなっており、同氏と進めて来たロシア音楽芸術の深化が出来ない事は無念であり、皆様の期待に応えられない事に心を痛めております。家族と共にモスクワ中心地で生活しているラザレフとは定期的に連絡をとり、来日実現への情勢を見極めていますが、現状は一段と厳しい方向へ向かっていると判断せざるを得ません。皆様の深く、温かいご理解をお願い申し上げます。

2023年5月より新型コロナウイルス感染症はインフルエンザ並の危険性5類に移行し、社会生活を通常に戻す方針が国から示されました。コロナ後の新しい世界へ進むことに少し不安はありますが、ほっとする気持ちが勝っています。この波にのって積極的に前へ進み、皆様とともに音楽芸術・文化の素晴らしさを存分に楽しんでまいりたいと思います。

日本フィルの新しい世界対応にご期待下さい。

公益財団法人  
日本フィルハーモニー交響楽団

理事長 **平井俊邦**



### ◆ 芸術性の追求

2022年度公演の実施状況を振り返ると、予定された全137公演をすべて完遂することができました。

楽団の芸術性を追求する上で欠かせない外国人指揮者による演奏会は、2022年度は3名の外国人指揮者により延べ16公演を実施することが出来ましたが、残念ながら2022年2月にロシアウクライナ戦争が勃発したため、桂冠指揮者兼芸術顧問アレクサンドル・ラザレフの来日は叶いませんでした。

定期演奏会ではこれまで継続的に共演している指揮者陣

### ◆ 社会性の拡充

2011年4月から始めた東日本大震災の被災地に音楽を届ける支援活動が11年間で320回を超えました。2022年度、長年に亘る被災地支援活動とその実績が「若い世代に未来への希望を育てている」との高い評価を受け「後藤新平賞」を受賞するという栄に浴することになりました。(詳細P.11)

被災地支援活動を通じて現地の皆さんからの多くのことを学び、また様々な力をいただいております。これらを発

### ◆ 経営を振り返る

自主運営オーケストラにとって肝心な演奏収入は、コロナで苦戦を強いられた前年よりは確実に増えたものの、通常の年には未だ及ばず、他方、総事業経費の増加は著しく、2022年度も財務上の根本的な課題として続いております。

事業経費を賄うための国の助成金や法人・個人からの協賛金、寄付金等でかなり補填することが出来たものの、最終損益は150万円の赤字決算を余儀なくされました。

を中心に演奏会を行いました。また定期演奏会以外の自主公演においては、クラシックの普及を意識し、より幅広い層にお楽しみいただくための公演づくりに努めました。入場者数や受託公演数の伸び悩みもありましたが、ファミリー向け「夏休みコンサート」は、長いコロナ疲れからの癒しを求めて多くの親子連れが来場し全公演完売、第九特別演奏会や、2月の九州公演も、指揮者(広上淳一)やソリスト(佐藤晴真、小林愛実、山口修)の人気も相まって入場者数が大幅に増え、先行きに明るさが見えてきました。

展させ、再び東北地方および社会に還元できるよう「音楽家に何が出来るか」を再び問い続けながら、社会の要請に応えていく所存です。

なお、自治体との連携では、2022年度は大牟田市と「音楽を通した魅力あふれるまちづくり推進協定」を結びました。また岩手県、福島県とも連携協定の話が進むなど、自治体との連携を深め、今後の大きな足掛かりとなりました。

コロナ禍の間に大きく減少した定期会員の挽回も200人程度に留まり、法人特別会員数の減少も相まって、安定収入を増やす計画を成果面では殆ど示すことが出来ませんでした。日本フィルを愛してくれる多くのファンや諸団体からの温かい支援により、最小限のマイナスにとどめることができましたこと、心より感謝申し上げます。

### Data 2022年度活動回数一覧

	主催	受託(共催含む)	計
オーケストラ公演	84	53	137
室内楽公演(*「被災地に音楽を」)			147(*19)

### Data 2022年度配信回数一覧

	公演数
有料配信	33
クラウド配信	2
計	35

### Data 2022年度経営報告

#### 1.貸借対照表

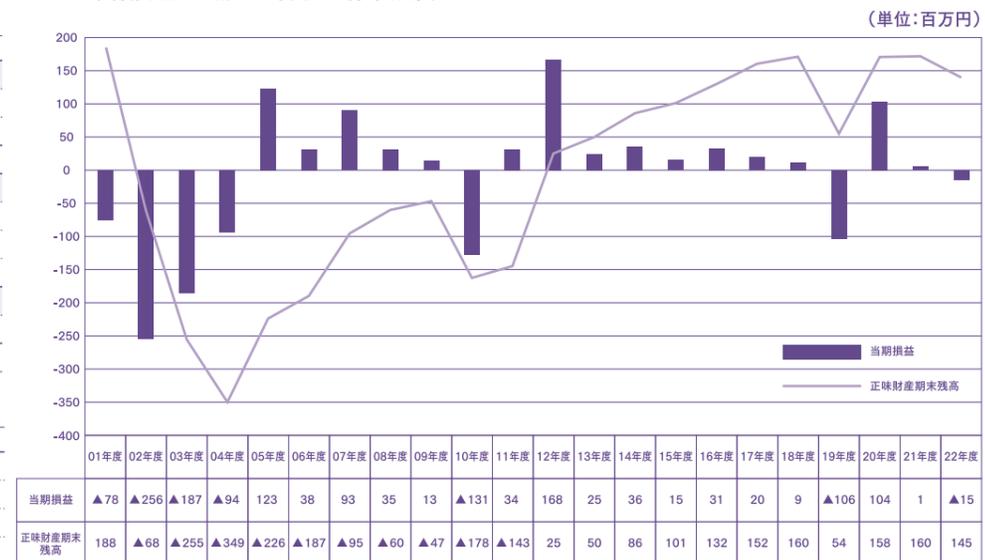
(2023年3月末現在、単位:千円)

科目	金額
<b>I.資産の部</b>	
1.流動資産	482,040
2.固定資産	422,105
資産合計	904,145
<b>II.負債の部</b>	
1.流動負債	188,065
2.固定負債	370,836
負債合計	558,901
<b>III.正味財産の部</b>	
正味財産合計	345,244
負債及び正味財産合計	904,145

#### 2.正味財産増減計算書

科目	金額
経常収益	1,414,381
経常費用	1,425,683
経常外増減等	▲3,505
当期正味資産増	▲14,807

#### 3.当期損益/一般正味財産期末残高



# オーケストラ・コンサートの実施状況

2022年度も、コロナ禍の長期化により、演奏会の運営には感染症対策のための大きな負担が生じました。とりわけ第8波では楽団内にも感染者をかなり出しましたが、それでも現場に混乱を生じさせることなく、多少のメンバーチェンジは発生したものの、安全に演奏会を実施いたしました。海外からのアーティスト招聘も復活、出演者変更やプログラムの組み直しは一部あったものの、芸術面にかかるコロナ禍の影響は徐々に下火となってきました。舞台上の奏者の距離も通常に戻りつつあり、大編成のプログラムも組めるようになってきました。合唱についての制限もようやく緩和に向かっていきます。ただ残念だったのは、長年強い絆で繋がっているアレクサンドル・ラザレフ（桂冠指揮者兼芸術顧問）が来日できなかったことです。

人々の交流についての規制は厳しいままで、コンサートの場での聴衆との温かい心の交流は次のシーズンを待つことになりました。



首席指揮者  
ピエタリ・インキネン  
©山口敦

桂冠指揮者兼芸術顧問  
アレクサンドル・ラザレフ  
©山口敦

桂冠名誉指揮者  
小林 研一郎

フレンド・オブ・JPO(芸術顧問)  
広上 淳一  
©Masaaki Tomitori

首席客演指揮者  
カーチュン・ウォン  
©Angie Kremer

## 定期演奏会

### ◆東京定期演奏会(サントリーホール、金曜日/土曜日2回公演)

2022年度は、入国規制の緩和により首席指揮者ピエタリ・インキネンの来日が実現、「ベートーヴェン・ツィクルス」が再開、気をてらわない正統派のベートーヴェンが新鮮にホールに響きました。次期首席指揮者となる新進気鋭のカーチュン・ウォンは自身のライフワークであるマーラー作品と共に伊福部昭など日本人作曲家の曲も積極的に取り上げる等、早々から芸術性の追求に大いなる意欲を発揮し、今後の活躍に期待の高まる一年でした。

フレンド・オブ・JPO(芸術顧問)の広上淳一、そして長年にわたり日本フィルの支柱である小林研一郎(桂冠名誉指揮者)、さらに昨年8月に正指揮者を退任し2023

年4月からバーミンガム市交響楽団の首席指揮者兼アーティストックアドバイザーに就任した山田和樹も含めた多彩なマエストロ陣が、奥深く知れば知るほど探求心が沸いてくるクラシック音楽の面白さを聴衆の心に訴えてまいりました。残念ながら2022年2月にロシア・ウクライナ戦争が勃発したため、桂冠指揮者兼芸術顧問アレクサンドル・ラザレフの来日は叶わなくなりました。その代役として6月の東京定期演奏会には50年振りに登場した秋山和慶が聴衆を魅了し、11月の東京定期演奏会ではフランス人オーボエ奏者フランソワ・ルルーが自ら演奏してタクトも振り、楽員も客席も幸せの渦に巻き込む素晴らしい演奏会を行いました。

No.	出演	プログラム
4月 739	指揮:小林 研一郎	シューマン:交響曲第4番 ブラームス:交響曲第4番
5月 740	指揮:カーチュン・ウォン ピアノ:務川 慧悟 ソプラノ:三宅 理恵	伊福部昭:ピアノとオーケストラのための《リトミカ・オスティナータ》 マーラー:交響曲第4番
6月 741	指揮:秋山 和慶 ピアノ:小川 典子	ドビュッシー:牧神の午後への前奏曲 ラヴェル:ピアノ協奏曲 フォーレ:組曲《ペレアスとメリザンド》 ラヴェル:バレエ音楽《ダフニスとクロエ》第2組曲
7月 742	指揮:広上 淳一 ヴァイオリン:米元 響子	ブルッフ:スコットランド幻想曲 ブルックナー:交響曲第7番
9月 743	指揮:山田 和樹	貴志康一:ヴァイオリン協奏曲 ウォルトン:交響曲第1番
10月 744	指揮:ピエタリ・インキネン	ベートーヴェン:交響曲第8番 ベートーヴェン:交響曲第7番
11月 745	指揮:フランソワ・ルルー	ドヴォルジャーク:管楽セレナーデ《伝説》より モーツァルト:オーボエ協奏曲 K.314 ビゼー:交響曲第1番
12月 746	指揮:下野 竜也 ヴァイオリン:扇谷 泰朋 テノール:糸賀 修平	フィンジ:入祭唱、武器よさらば タネジ:3人の叫ぶ教皇 ヴォーン=ウィリアムズ:交響曲第6番
1月 747	指揮:カーチュン・ウォン	伊福部昭:シンフォニア・タブカーラ バルトーク:管弦楽のための協奏曲
3月 748	指揮:小林 研一郎 ピアノ:金子 三勇士	リスト:ピアノ協奏曲第1番 ベートーヴェン:交響曲第3番《英雄》

### ◆横浜定期演奏会

2022年11月、リニューアルされた横浜みなとみらいホールに復帰。20か月間神奈川県内の会場を転々としたが、ようやく親しみのある響きの中で音楽を届けることができるようになりました。ほぼ予定通りのプログラムで開催でき、コロナに苦しみながらも今在るべき姿をお届けすることができたのではないかと思います。

唯一、横浜の皆様へぜひともお届けしたかったアレ

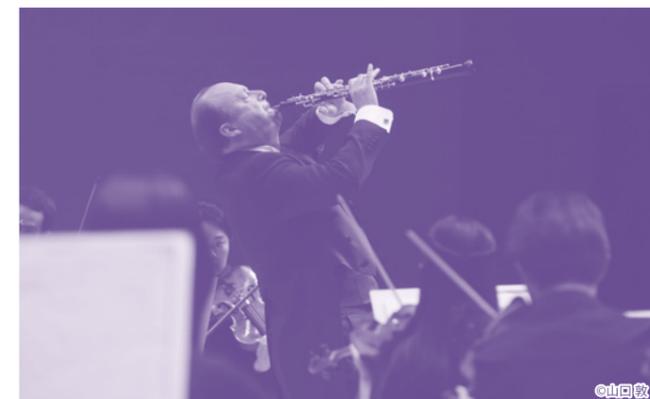
クサンドル・ラザレフのショスタコーヴィチができなかったことは非常に残念でした。

新型コロナ感染拡大防止のための規制は継続され、オーケストラと聴衆との交流イベントも実施することが出来ず、目標に掲げた「定期会員数の再構築」も十全に果たすことは出来ませんでした。すこしずつではありますが、会員数もコロナ前、ホール改装前に戻りつつあります。

No.	出演	プログラム
4月 376	指揮:ピエタリ・インキネン	シベリウス:交響詩《エン・サガ》 ベートーヴェン:交響曲第2番 ベートーヴェン:交響曲第4番
5月 377	指揮:カーチュン・ウォン ヴァイオリン:南 紫音	モーツァルト:《後宮からの逃走》序曲 シベリウス:ヴァイオリン協奏曲 ドヴォルザーク:交響曲第7番
6月 378	指揮:広上 淳一 ヴァイオリン:ボリス・ベルキン	プロコフィエフ:ヴァイオリン協奏曲第2番 ショスタコーヴィチ:交響曲第5番
7月 379	指揮:広上 淳一 ピアノ:福間 洸太郎	ベートーヴェン:ピアノ協奏曲第4番 ベートーヴェン:交響曲第6番《田園》
9月 380	指揮:小林 研一郎 ヴァイオリン:周防 亮介	チャイコフスキー:ヴァイオリン協奏曲 チャイコフスキー:交響曲第6番《悲愴》
10月 381	指揮:藤岡 幸夫 ヴァイオリン:高木 凜々子	ヴィヴァルディ:ヴァイオリン協奏曲集《四季》 ベートーヴェン:交響曲第7番
11月 382	指揮:角田 鋼亮 児童合唱: シンフォニーヒルズ少年少女合唱団	チャイコフスキー:バレエ音楽《くるみ割り人形》全曲
12月 383	指揮:太田 弦 ソプラノ:盛田 麻央 アルト:杉山 由紀 テノール:樋口 達哉 バス:黒田 祐貴 合唱:東京音楽大学	ベートーヴェン:劇音楽《エグモント》序曲 ベートーヴェン:交響曲第9番《合唱》
1月 384	指揮:カーチュン・ウォン ピアノ:小菅 優	ラフマニノフ:ピアノ協奏曲第2番 ラフマニノフ:交響曲第2番
3月 385	指揮:藤岡 幸夫 サクソ:須川 展也	菅野祐悟:サキソフォン協奏曲《Mystic Forest》 チャイコフスキー:交響曲第4番



50年ぶりに日本フィル東京定期演奏会(10月)に登場した秋山和慶



11月東京定期演奏会に登場したフランソワ・ルルー

## その他の演奏会(首都圏)

幅広い聴衆育成とクラシック音楽の普及を目指し、多彩な公演事業を行いました。

桂冠名誉指揮者小林研一郎との「コバケン・ワールド」を引き続き実施。第2回となった「コバケン・ワールド in KYOTO」と併せて、無事好評のうちに全4公演を実施いたしました。

「第九特別演奏会」は声楽が関係するため、コロナ対策により一層の配慮が必要となり、舞台上の人数制限

## その他の主な共催事業

### ◆相模原定期演奏会

10年目(第20回)を迎えた相模原定期演奏会。2022年度は9月に小林研一郎マエストロとヴァイオリンの周防亮介、2023年3月にはマエストロ藤岡幸夫とピアノの横山幸雄が登場しました。一昨年度から始まった隣接デパートの取り壊しやコロナの影響によって客

### ◆さいたま定期演奏会

横浜定期同様に改修工事の関係でメイン会場を浦和にある「埼玉会館」に移しての実施となりました。歴史あるこの会場での演奏会もまた独特な良い雰囲気演出しており、音楽を楽しむという意味ではとても良い時を過ごすことができました。

2023年3月に「ソニックシティ(大宮)」に復帰。神川

### ◆とっておきアフタヌーン

2022年度もサントリーホールとの共催によりVol.19～21の3回を開催。“心に音楽のエールを”と題し、クラシックを初めて聴く方にも親しみやすい名曲の数々と、SNSキャンペーンや有料オンライン配信(ライブ&リ

は残りましたがアマチュア合唱団との共演も復活しました。

他にも「名曲コンサート」、「芸劇シリーズ」、そして「特別演奏会」等で、親しみやすいプログラムや、ジャンルを超えたコラボレーションなど、クラシック音楽の普及に取り組みました。また文化庁子供文化芸術活動支援事業(劇場・音楽堂等の子供鑑賞体験支援事業)により通常の演奏会に子供たちを招待しました。

足が遠のきつつあることが懸念されますが、小田急線沿線の中では随一の規模である「相模女子大学グリーンホール」の地域での存在感を改めて認識し、地元の文化振興に寄与できるよう、これまで以上にホールとの連携を努めてゆきたいと思っております。今年度も小田急線での車内広告などで周知に努めました。

町でのライブビューイングもはじめての試みとして行い、100人を超えるお客様にお楽しみいただきました。さいたま定期はほとんどの公演でライブ配信も行っております。今後視聴者数をふやし、より多くの方にとって日本フィルのさいたま定期が親しみのあるものになるよう発展したいと思っております。

ピート)を実施し、幅広く音楽の楽しみ方をご案内しました。ナビゲーターの高橋克典さんは、アーティストの方々との楽しいトークでコンサートの満足感を高める他、「真夏の夜の夢」では日本フィルと息のあった語りも担当しました。

## カーチュン・ウォン指揮 第740回東京定期演奏会

2週間前の「堅実な」プログラムとは好対照なラインナップがおもしろい。カーチュン・ウォンが力を入れるマーラーの交響曲シリーズ路線だが、「第4番」に伊福部作品を抱き合わせてきた。前代未聞、というより日本人にそういう発想はない。対外的な視点と慧眼に感服する。伊福部作品ではエリーザベトやロン＝ティボーの国際コンクールで入賞した務川慧悟が登場。曲の主題となるさまざまな楽想を紡ぎ出すピアノが核となり、最後のオスティナートによるクライマックスに向かって猛進する。務川の強靱端麗なピアノリズムもフルオーケストラの壮麗な音響に飲み込まれていくさまは凄まじい。もっと聴かれるべき作品と再認識させられる。後半のマーラー「第4番」もカーチュン・ウォンの指揮は相変わらずオーヴァー・アクション気味だ。しかし、「見た目」に惑わされてはいけない。決して誇大な表現ではなく、むしろスコアに忠実であり、それ以外のスコアの「言外」にある「やるべきこと」を自発的に演奏者に促している。第1楽章から刺激的な音響や隙のないアンサンブルなどあたたかも初めて聴くような生彩な表現に引き込まれる。第3楽章の深い情感を湛えたシリアスな世界は感動的だった。終わりのところで白いドレスの三宅理恵がしずしずと登場。まるで天使が舞い降りたよう! 終楽章の明澄さや陰影の機微が三宅の外連味のない歌唱により精細に浮かんできたのは見事。今後のカーチュン・ウォンのマーラー演奏が楽しみになる。

(音楽の友 2022年7月号より転載 齋藤 弘美)

## Data 2022年度オーケストラ公演の内訳

主催公演	公演数	入場者数(約)
東京定期演奏会	20	23,900
横浜定期演奏会	10	10,700
名曲コンサート	5	7,500
芸劇シリーズ	5	6,700
コバケン・ワールド	4	6,300
その他	8	7,000
夏休みコンサート	16	24,300
「第九」特別演奏会	6	9,500
九州公演	10	10,700
計	84	106,600

受託公演	公演数
一般公演(共催含む)	34
音楽教室/学校公演	19
計	53

# 社会への取り組み

## ◆エデュケーション・プログラムの実施状況

日本フィルの活動の特徴づける細やかで幅広いエデュケーション・プログラム。夏休みコンサートは近年では初の全公演完売、楽しみにご来場いただいたお客様のたくさんの笑顔に満たされました。ますます社会からの期待が高まっていることを実感いたしました。

### 【夏休みコンサート】

2022年度の日本フィル夏休みコンサートも、昨年同様コロナ禍の影響を大きく受ける中での実施となりましたが、全公演を無事に開催することができました。今回は第2部をバレエとした回とピアニストに上原彩子さんを迎えた回の2つのヴァージョンを制作し、これまでにないプログラミングとなりました。

集客については我々の予想を大きく超え、全公演が完売となりました。コロナによって我慢を強いられた反動が今回チケット販売数という形で如実に現れ、多くの方々の期待を実感しました。

なお、以前のようなウェルカム・コンサートや懇談会等のホワイエでの交流イベントは、実施を見合わせ、安全を最重視して運営いたしました。

### 【春休みオーケストラ探検(エデュケーション フェスティバル in 杉並 2022)】

杉並公会堂との共催で開催している《春休みオーケストラ探検(エデュケーション・フェスティバルin杉並)》は、2022年度で14回目を迎えました。本事業は、毎年テーマを設定し「五感で楽しむフェスティバル」として低年齢の子どもを中心に親しまれています。

2022年度は「宝物を探しにいこう!」というテーマのもと、2回公演を行い、多くの子どもたち、ご家族が来場くださいました。

今後も子どもたちがクラシック音楽の楽しさを広げる場として充実したプログラムをお届けします。

### 【室内楽等による取り組み】

#### ■日本フィル主催

「オケのテイキはおもしろい!」音楽ワークショップ

[マイケル・スペンサー(日本フィル・コミュニケーション・ディレクター)監修]

#### ■自治体との連携

出張コンサート(杉並区内の小中学校・保育園・高齢者施設等)

さいたまプライマリーコンサート(市立小中学校)

大宮区クリニック(小中学校金管バンド対象)

夢をみつける!リアル体験教室「コンサートをつくろう」(主催:埼玉県、青少年育成埼玉県民会議)

#### ■大学と連携した取り組み

女子美術大学ヒーリング表現領域への音楽ワークショップ

#### ■企業との連携

(株)ワコム主催「Connected Ink2022」への出演

富国生命主催「特別支援学校コンサート」への出演

武州ガス(株)主催「日本フィル弦楽オーケストラコンサート」出演

### 【その他の活動】

#### ■文化庁主催「文化芸術による子供育成推進事業」

■杉並区音楽鑑賞教室(小中学生対象)

文化芸術による子供育成推進事業

## Data 2022年度エデュケーション・プログラム、その他の内訳

夏休みコンサート(主催)	16	職場訪問	なし	プレトーク(オーケストラ・ガイド等)	21
春休みオーケストラ探検	2	60歳からの楽器教室	198	ワークショップ	9
学校・施設訪問コンサート	40	インターンシップ	なし	クリニック	9
オーケストラたんけん隊	中止	プレイベント	2		
公開リハーサル	7	アフターイベント(楽員とのオンライン懇談等)	なし		



マイケル・スペンサーによる音楽ワークショップ



女子美術大学ヒーリング表現領域への音楽ワークショップ



文化芸術による子供育成推進事業

## ◆ リージョナル・アクティビティの実施状況

地域を音楽で豊かに活気あるものにし、課題解決のお手伝いをする活動はますますその需要が高まっています。特に拠点としている杉並区との活動は多岐にわたり、ユニークな存在となっています。

### 【杉並区での活動】

1994年に友好提携を結び、四半世紀以上にわたり多彩な活動を行っている杉並区は区制90周年を迎え、日本フィルが委嘱を受けた「区の曲」を積極的に活用した一年となりました。吹奏楽界の巨匠である作曲家福島弘和に杉並区の文化や自然を題材とした交響詩「鼓吹の桜」を委嘱、オーケストラ、吹奏楽、弦楽合奏、室内楽(弦楽・木管・金管)の各編成版を作成、吹奏楽版を除く全ての版を日本フィルが初演しました。10月には区制90周年記念式典にも出演。吹奏楽版は区内の杉並高校が映像収録を行い、すでに複数の演奏会で発表されています。今後はこの曲を、様々な学校やアマチュア団体の活動との連携に活用していきたいと考えています。

杉並区・杉並公会堂と実施している「杉並公会堂シリーズ」は通常通り6公演開催しました(上記「鼓吹の桜」は2023年3月の杉並公会堂シリーズで初演)。

9月には毎年出演している杉並区敬老会、1月には成人式にそれぞれ出演。また例年通り区内の小中学校や区内施設への出張音楽教室・出張コンサート、公開リハーサル、区役所ロビーコンサートなど、区との友好提携に基づく事業も計画通り実施しました。また、ふるさと納税を通じて、東北での活動への補助金を受領しました。

### 【九州公演】

九州公演の大きな特徴は、すべての地域で、自主参加の市民による実行委員会がボランティアで日本フィルと協同し運営している点です。

48年目となる今年度も、引き続き文化庁「劇場・音楽堂等機能強化推進事業(劇場・音楽堂等間ネットワーク強化事業)」の助成を受け、全7県10会場での公演を開催することができました。(唐津のみ、市民会館閉館のため小編成オーケストラによる特別プログラム)

今回は、指揮に広上淳一(フレンド・オブ・JPO(芸術顧問))、チェロ・佐藤晴真、ピアノ・小林愛実、ギター・山口修を迎えました。

九州でも、コロナ禍で制限されていた生演奏への渴望感は大きく、日本フィルへの高い期待もあいまって、10公演中4会場(鹿児島・福岡・長崎・唐津)で満席・完売となり、他地域もたいへん盛況でした。

広上マエストロは各会場で地元実行委員の皆さんに親しくねぎらいの言葉をかけ、彼らの尽力を理解し高く評価してくださいました。

また、「ショパン国際コンクール」で4位入賞で注目された小林さんがタイムリーに出演されたこと、長年の演奏活動が地元で広く親しまれている実力派の山口さんを起用したことなど、お客さまのニーズや地域性に寄り添いつつ活発に活動したことで、充実した大きな成果を挙げることができました。

各地域と日本フィルは長年にわたり人と人との理解・共感を深め、強い絆で結ばれてきましたが、今年度は大牟田市と「音楽を通した魅力あふれるまちづくり推進協定」を締結し、自治体との結びつきもより確かな形をとるようになっています。

一方では、主にマンパワーの面で、公演継続の負担が増している地域もあり、今後の課題となっています。

2025年2月に迎える九州公演50周年とその先の未来へ向け、九州の音楽文化振興のために、今後もより緊密な連携とコミュニケーションを目指します。

### Data 杉並区との友好提携に基づく活動回数

杉並公会堂シリーズ [杉並区との友好提携による公演]*	4
区役所ロビーコンサート	4
公開リハーサル	4
出張音楽教室	9
公募出張コンサート	3
区施設出張コンサート	11
小中学校音楽鑑賞教室(オーケストラ)	8
区内ホール等のリハーサル使用	56

\*夏休みコンサート含む

### Data その他杉並区での活動回数

春休みオーケストラ探検	2
杉並公会堂シリーズ [杉並公会堂(京王設備サービス)・日本フィル共催公演]	3
60歳からの楽器教室	198



佐藤晴真(北九州、熊本)



小林愛実  
(大分、宮崎、鹿児島、福岡、大牟田、佐賀)



山口修(長崎、唐津)

### 【宇部公演】

「宇部興産チャリティコンサート」は、毎年恒例のUBE株式会社(旧宇部興産)の地域貢献活動として着実に定着し15回目になりました。指揮に大植英次、ソロにヴァイオリニストの小林美樹を迎える形で、フルオーケストラの公演を開催することができました。今回より次世代音楽文化振興事業として「子どもたちの教育」に重点を置き、従来の宇部市に加え、隣接する山陽小野田市・美祢市の小中学生も公演に招待。また演奏は地元FM局により市内に生中継を行いました。

公演に付帯して実施している地域還元プログラムもコロナ禍に対応した内容で継続。病院への訪問コンサート等は、演奏を収録したDVDにて上演の形で実施し、また宇部市内中学校へのクリニック指導はオンラインでのリモート個人レッスンとして、延べ6回にわたり行いました。

音楽を通した地域貢献活動として日本フィルの活動の柱がすべて発揮される本公演を、今後も引き続き企業・自治体と一体となって積極的に展開してまいります。

### 【落合陽一×日本フィル プロジェクトVOL.6《遍在する音楽会》】

「テクノロジーによってオーケストラを再構築する」というテーマのもと、2018年から継続している「落合陽一×日本フィルプロジェクト」は、オーケストラの新たな魅力と価値を広げるとともに、聴覚と触覚や視覚などの分断を廃し、人間の五感の共感的な「身体性」を演出する数々の取り組みを重ねてきました。

2022年度公演では、「世界は、音楽に満ちている」をキャッチフレーズに、「時間の芸術」である音楽は感動を呼び起こす太古からのメディアであることを表現する内容で、ジョン・ケージの「ミュージサーカス」を落合陽一の演出版でお届けしたほか、聴覚と視覚が一体となる鑑賞体験を誘う新作の作曲を藤倉大に委嘱初演するなど、奇しくもコロナ禍で失われた「音楽の身体的体験」の喜びを共有する公演となりました。

クラウドファンディングも引き続き実施、500万円を超える支援をいただきました。

### 【音楽の楽しみを深め、広げる活動「温かさ」+「新たな挑戦」】

日本フィルの特徴である「温かさ、人に寄り添う」を活かした活動をコロナ禍との共生のなかで徐々に復活し、音楽の持つ楽しみをより多くの方に広め、また、聴き手の皆様により深く音楽を楽しんで頂くよう工夫しました。

主催公演での託児サービス、夏休みコンサートの「懇談会」や九州での交流会をはじめとする楽員と聴衆との交流は再開に至りませんでした。ハンディキャップを持つ方のための割引や若い世代への割引料金の設定、聴覚障害のある方へのボディソニック(体感音響システム)、演奏会場でのプレトーク、アフタートーク等は実施できました。コロナ禍で開始したテレビマンユニオンでの映像配信は今年度は27公演行いました。また、日本フィル公式YouTubeでは、「5分でわかる! 大人のためのオーケストラ入門」を開始。一見難しく見える定期演奏会をいかに楽しむかを、音楽評論家の奥田佳道が映画プロデューサーであり日本フィル評議員の村



リモートでの音楽クリニック(楽器指導)



《遍在する音楽会》8月25日 サントリーホール

上典史子の質問に答える形式でご案内します。BS朝日の日本フィルのミニ番組「Welcomeクラシック」(水曜22:54~)はインキネン、山田和樹のふたり体制でしたが5年目を迎える2023年4月からは広上淳一が加わり一層華やかになります。

2022年度は、プラネタリウムへの音楽映像の提供や、カラオケ企業と協働してカラオケBOXで見ながら聴ける映像の提供、また2020年度に設立したオリジナル・レーベル「JPO RECORDINGS」を活用して、過去の貴重な音源を使った販売用CDを2種制作するなど、音楽の楽しみ方に対する新しい試みも始めました。

今後も「社会に向けた取り組み」の可能性を常に模索し、オーケストラの果たしうる役割を拡充してまいります。

# 被災地に音楽を & 東北の夢プロジェクト

## 震災から12年目、東北各地での活動を再開

### ◆ 被災地に音楽を

コロナ禍以来中断していた被災地への訪問を再開する一年となりました。震災から12年を迎え、各地の状況に耳を傾けながら、地域との協働や今後の可能性を探る活動を心がけました。6月には宮城県石巻市を3年ぶりに訪問し、雄勝小中学校、川の上百俵館と、新たに完成した文化施設「マルホンまきあーとテラス」で室内楽公演を実施しました。また、10月には福島県南相馬市立原町第一中学校吹奏楽部を3年ぶりに訪問、文化施設ゆめ

### ◆ 東北の夢プロジェクト

東北地方のさらなる復興の後押しを目指して「子どもたちの夢、未来、笑顔」をキーワードに子どもたちと共演し、「地域内外の交流」と「新たな文化発信」の場づくりを行う東北の夢プロジェクトは、活動への理解と共感の輪が広がってきています。岩手県では県、岩手日報社、岩手県芸術文化協会の共催により3回目の開催となり、沿岸の山田町の境田虎舞保存会、内陸からは北上市の黒沢尻北小学校の合唱部が参加しました。また、地震やコロナの影響で中止が続いていた福島県でも初めての公演が郡山市で実現し、南相馬市立原町第一中学校吹奏楽部と、市内複数の小中学校で構成され

### ■ 東北の夢プロジェクト



楽しいオーケストラin岩手2022

### ■ 被災地に音楽を



被災地に音楽を石巻(雄勝小中学校)



被災地に音楽を石巻(雄勝小中学校)



被災地に音楽を南相馬(ゆめはっと)

ハットで同校と合同演奏会を実施、地域の方々に音楽を楽しんで頂きました。また、文化庁の「アートキャラバン」事業を通じて岩手県宮古市をオーケストラで初訪問し、地元のプロ音楽家やジュニア・オーケストラと共演、記念すべき公演を実現することができました。今後は福島県沿岸の原発周辺の地域への取り組みや、コミュニティの再生に取り組む岩手県陸前高田市など、それぞれの地域の課題と向き合っていきます。

る郡山合唱塾が出演し、素晴らしい演奏を披露しました。各参加団体からは「コロナ禍で活動が停滞する中、東北の夢プロジェクトへの参加が活動再開の大きな動機づけとなった」との声を頂きました。7月にはこれまでの東北での活動への評価から「第16回後藤新平賞」を受賞し、2023年5月には岩手県と文化振興・子どもたちの健全育成・復興支援のための連携協定を結び、2023年度から岩手県を含む実行委員会を立ち上げます。地域の方々とより深く連携し、活動を継続していきます。



楽しいオーケストラin福島2022

# あらゆる人々へ、世代へ、地域へ、世界へ 第16回 後藤新平賞 授賞式レポート

写真提供:後藤新平の会

このたび日本フィルは、第16回後藤新平賞を受賞いたしました。受賞にあたっては、日本フィルが東日本大震災の被災地における活動「被災地に音楽を」を継続し、さらにそれが「若い世代への未来への希望を育てている」との評価を頂きました。

2022年7月5日(火)に杉並区の座・高円寺にて授賞式が執り行われました。



当日は後藤新平の会より青山侑明治大学名誉教授をはじめとする選考委員の6名の方々が登壇され、日本フィルからは理事長平井俊邦が登壇。後藤新平賞

本賞、並びに記念の表彰楯とスタンドグラス「祈りのシンフォニー」を賜りました。

それにつづいて、理事長平井による受賞者講演が行われ「後藤新平の奉仕の精神と人材育成に対する高い志に通じる」との評価を頂いた「被災地に音楽を」について、当時の映像や写真、被災された方々・演奏に赴いた演奏家の言葉を紹介しながらその活動と理念をお話いたしました。

会場には震災発生後の2011年4月に初めて現

地を訪問したメンバーも駆けつけ、受賞の喜びを分かち合いました。

あらためて、後藤新平氏の足跡の下作られた志の高い賞をいただけたこと、また、長年続けてきた日本フィルの被災地支援活動に光を当てていただいたことに深く感謝いたします。また、活動を推進した演奏家をはじめ、支えていただいた皆様、現地でお会いした方々、復興に尽力されている方々にもこの場を借りて御礼申し上げます。

今回の受賞を糧として、日本フィルはこれからも東北地方沿岸部への取り組みを継続して参ります。そして「東北の夢プロジェクト」では東北地方各地の地域や学校で子どもたちが取り組む音楽活動・文化活動を広く紹介することで、子どもたちと地域の未来を応援していきたいと考えています。

今後とも日本フィルの社会への取り組みへのご理解とご協力をいただければ幸いです。



### 後藤新平賞について(同賞プレスリリースより)

#### 【趣旨】

後藤新平は、日本の近代化の過程において、百年先をも見通した時間的・空間的スケールの大きな政策を構想し、「人」を育てながら地域や国家の発展に寄与しました。本賞では、日本の国内外を問わず、現代において、後藤新平のように文明のあり方そのものを思索し、それを新しく方向づける業績を挙げた方を、一年に一度選考し顕彰しています。

#### 【受賞理由】

2011年に発生した東日本大震災の被災地に対しては、復興に向けて全国各地から医療・福祉などさまざまな支援の手がさしのべられています。その中で日本フィルハーモニー交響楽団は「心の復興」を支援しようと、震災発生直後から「被災地に音楽を」のプロジェクトに取り組み、被災地における演奏活動を継続して行ってきました。特に楽団員と地元の青少年との交流は、若い世代の「未来への希望」も育てています。11年間に300回を超え、今後も継続されるというこの演奏活動は、後藤新平の奉仕の精神と人材育成に対する高い志に通ずるものとして、本賞を贈呈します。

■主催 後藤新平の会 ■後援 読売新聞社 藤原書店

### 記念品

#### ■ 記念表彰楯

#### ■ スタンドグラス

「祈りのシンフォニー」  
『日本フィルの心温まる多岐にわたる活動を著すため、音楽がもつ「光り」や「祈り」をスタンドグラスに表現したいと考え、北の大地で育まれた大樹である「杉」をベースに、演奏者の一人ひとりが紡ぐシンフォニーの響きにつつまれ、音楽の多様な色彩が世界に広がっていくように表現してみました。』

制作:岸 哲也(スタンドグラス作家)  
アートディレクション+台座制作:内田純一(建築・意匠家)  
コンセプト+プロデューサー:藤原良雄(後藤新平の会事務局長)

### 活動の記録

【日本フィルの被災地支援】(YouTube再生リスト)  
<https://youtube.com/playlist?list=PLCl-hzatBEFDSI3Xg5GXb6HPiQkUpL3AS>

#### 【被災地レポート】

<https://japanphil.or.jp/orchestra/news/4727>



日本フィルの被災地支援



被災地レポート

### これまでの訪問回数

326回(2023年3月末日現在)

# 九州公演レポート

1975年に6公演でスタートした九州公演は、現在九州全7県10公演という規模に拡大し、他の音楽団体の追随を許さない充実した活動を展開しています。音楽を聴く喜び、コンサートを創る喜びを共有し、市民と音楽家の強い絆が各地でしっかりと根づいています。

## 九州で日本フィルを待つ人々

渡辺 和

未だコロナ禍にあった2022年2月、日本フィルハーモニー交響楽団九州公演のいくつかの同行した。首席指揮者インキネンの入国が成らず急遽抜擢された永峰大輔と横山奏の奮闘ぶり、中止を決定せざるを得なかった長崎実行委員の寂しげな姿、聴衆と交歓できぬ無念を舞台上で漏らす楽団長の言葉——いつ終わるとも知れぬ異常な時の中でも、なんとか音楽を聴きたい、弾きたい人々の情熱が爆発するわけにもいかず沈殿する、まだ日常にはほど遠い冬だった。あれから1年。

もぎりの前に消毒薬が置かれ、スタッフや聴衆にマスクは不可欠といえ、秋口からの数ヶ月の間に福岡や大分のコンサートホールには賑わいの片鱗が戻っている。記録的な厳冬も峠を越し、梅の花と共にまた日本フィルが九州にやってきた。「日本フィルにとって九州公演は原点。地元と一緒に、芸術面では定期演奏会と同じものを作り上げてきた」、演奏家出身の常務理事がそう繰り返す。以下は、日本フィルと人々が関わり合う早春九州風景のスケッチ。2023年2月11日から23日まで10会場で開催された第48回九州公演の詳細は、公式ブログをご参照あれ(<https://japanphil.or.jp/blog/25740>)。

ツアー初日、土曜午後の北九州ソレイユホール。正面の当日券売り場脇に、巨大なホール座席表が張り出されている。一畳ほどの用紙に手書きされ、近寄って眺めれば小さなシールが貼られた席も。どうやらシールありが残席で、当日券客は欲しい席のシールを剥がし横のチケット売り場に持参、その席を購入する、というシステムのような。売り場に控えるスタッフに抛れば、長老実行委員の孫の高校生が発案し友達と作ったとのこと。「実行委員の3代目。来るのは今日だけで、音楽が好きかも



判らない子たちなんですよけどね」と笑う。

検温や指先消毒のマシンの横に立ち、チケットをもぎり、客席に案内するのは、主催する「日本フィル北九州公演実行委員会」のメンバーだ。文字通りの老若男女、幅広い世代のボランティアが、ロビーを動いている。なにしろ九州ツアーの開始2年目から参加、主催も47回目となる歴史ある組織なのだ。スタッフを引退し、車椅子でやってきた元実行委員らしきベテランが、長老スタッフと懐かしそうに話し込んでいたり。北九州では、世代を超えた人達が日本フィルを待っている。

火曜日とはいえバレンタインデーの晩、大分市中心部のiichikoグランシアタにはどこことなくウキウキした感が漂う。ロビーの片隅に、入口で配布された当日プログラムとは別の冊子が積み上がる。英語・中国語・韓国語に拠る当日プログラムだ。手に取る人がそれほどいるでもないし、特別に大きな告知も掲げられていないけれど、そんな目で周囲を見渡せば、ヒジャブをつけた女性を連れたアジア系イケメン君が、思いっきりのオシャレをしてエスカレーターを上層階へと向かっている。そう、別府や湯布院を抱える温泉県の産業は、アジア圏からのマンパワーで支えられているのである。「すべての人に音楽を」をモットーとする日本フィルと実行委員会、異国でのデートの夜を楽しむ若者らのニーズにも、対応しようとしている。



小林愛実の繊細なショパンは、最高のバレンタインのプレゼント。アンコールの《弦楽セレナーデ》ワルツの余韻と共にホールを去る人々を、アーケードの灯が招く。大分では、多様な文化の人々が日本フィルを待っている。

ツアー二度目の日曜午後、開館37年目を迎えちょっとレトロな風格さえ感じさせる大牟田文化会館大ホールのロビーでは、「大牟田日本フィルの会」メンバーばかりか、大牟田市の関係者もせわしなく働く。昨年夏に日本フィルと大牟田市が「音楽を通じた魅力あふれるまちづくり推進協定」を締結、市が進める文化芸術振興プランに沿って、民間任意団体と市がコラボする新しい九州ツアーの実験が始まっているのだ。この日も大牟田市が公演チケット100枚を買い上げ、小・中・特別支援学校の児童・生徒を無料招待。客席には制服姿も目立ち、初めて聴く生の大オーケストラへのワクワク感が漂う。



ベートーヴェン第7番が熱狂的拍手を誘い、終演後に楽団長がステージから「来年こそロビーでの交流やウェルカムコンサートを」と挨拶。以前なら、ボランティア実行委員にとっては、ここからの団員との公式交流会がもうひとつの本番だったという。が、ホール使用制限は解除といえ、まだ無礼講の打ち上げというわけにはいかぬ。町の将来を真剣に考える現役世代が積極的に活動する大牟田の夜は、市関係者、遙か本州から訪れた応援団も加わり、居酒屋の一隅で更けていく。大牟田では、街の働き盛りが知恵を巡らせ日本フィルを待っている。

唐津駅から佐賀方面へとJRで20分程、松浦川対岸の相知交流文化センターは、音楽にも対応したサライホール(320席)併設の大規模コミュニティセンターである。大規模ホールの市民会館が新築へ向け取り壊し中でも、なんとか日本フィルを聴きたい唐津日本フィルの会の切なる希望に応えた、ツアー唯一の室内オーケストラ特別公演である。

翌日が祭日とはいえ平日夜の地方都市郊外、聴衆がいるのか心配にもなるが、320の客席には補助席も出され、10数人ほどの高校生も。と、おもむろにボードを掲げ、「携帯電話をお切りください」と客席を巡り始める。高校生達もスタッフなのだ。ぐるりと通路を巡り、お役御免。照れくさそうに席に着き、笑いながら開演を待っている。



メインに据えられた《アランフェス協奏曲》は、小規模空間にPA装置も不要。こんな公演がいかにか特別で貴重なのか、唐津市民には知る必要もあるまいが、首都圏ではあり得ない贅沢すぎる時間が流れる。ソリストのベテランギタリスト山口修が舞台を去ると、実行委員会との顔合わせに参加して48年の尽力に感謝したという指揮者のフレンド・オブ・JPO(芸術顧問)広上淳一が、聴衆に頭を下げる。唐津の小さな会場でも、生の音楽を聴きたい人達が日本フィルを待っていた。

## 第48回九州公演 日本フィル in KYUSHU 2023

指揮:広上 淳一[フレンド・オブ・JPO(芸術顧問)]  
チェロ:佐藤 晴真 ピアノ:小林 愛実 ギター:山口 修



©Masaaki Tomitori

©Tomoko Hidaki

©Makoto Nakagawa

- [A]チャイコフスキー: 歌劇《エフゲニー・オネーギン》より「ボロネーズ」
- [B]チャイコフスキー: ロココの主題による変奏曲
- [C]チャイコフスキー: 交響曲第4番
- [D]ショパン: ピアノ協奏曲第2番
- [E]モーツァルト: 歌劇《魔笛》序曲
- [F]ショパン: ピアノ協奏曲第1番
- [G]ベートーヴェン: 交響曲第7番
- [H]ロドリゴ: アランフェス協奏曲

2023 2月	11日(土・祝) 北九州ソレイユホール	[A][B][C]	18日(土) アクロス福岡シンフォニーホール [E][F][G]
	12日(日) 熊本県立劇場	[A][B][C]	19日(日) 大牟田文化会館 [E][F][G]
	14日(火) iichikoグランシアタ(大分)	[A][D][C]	21日(火) 長崎市民会館 [E][H][G]
	15日(水) メディキット県民文化センター(宮崎)	[A][D][C]	23日(木・祝) 佐賀市文化会館 [A][D][C]
	17日(金) 宝山ホール(鹿児島)	[E][F][G]	

2023年2月22日(水) 相知交流文化センターサライホール(唐津) [H]をメインにした特別プログラム



PHOTO 1 2023年9月から首席指揮者に就任することが発表されたカーチュン・ウォンが登場した東京定期演奏会(5月)。『音楽の友』のコンサートベスト10に上げていただきました。



PHOTO 2 桂冠名譽指揮者小林研一郎による大人気の「コバケン・ワールド」は、京都公演と東京公演を開催(6月)



PHOTO 3 夏休みコンサート2022、前半の公演は上原彩子さんとのピアノ・プログラム。後半の公演はスターダンサーズ・バレエ団との《白鳥の湖》をお届けしました(7月)



PHOTO 4 継続して行っている「東北の夢プロジェクト」。楽しいオーケストラin岩手でも子供たちの笑顔が輝きました(8月)

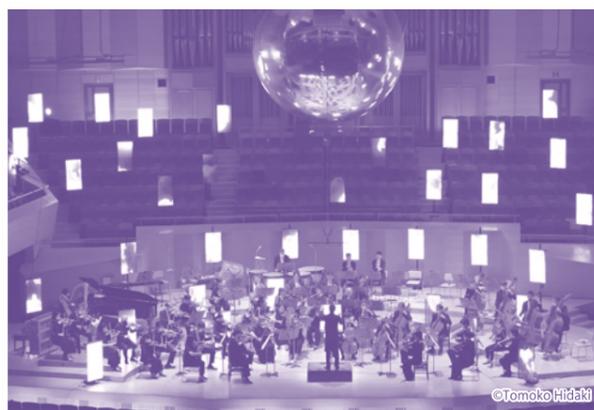


PHOTO 5 落合陽一×日本フィル プロジェクト第6弾は、《偏在する音楽会》。世界は、音楽に満ちている(8月)



PHOTO 6 新シーズンスタートの東京定期演奏会は、恒例の山田和樹さん登場。9月1日にソロ・コンサートマスターに就任した田野倉雅秋と、ゲネプロを聴きにきていた首席客演指揮者カーチュン・ウォンのスリーショット。山田さんとカーチュン・ウォンさんは初対面!(9月)



PHOTO 7 首席指揮者ピエタリ・インキネンとの2019年10月以来となった東京定期演奏会(10月)



PHOTO 8 指揮の下野竜也さんの渾身のイギリス音楽によるプログラムをお届けした東京定期演奏会(12月)



PHOTO 9 とおきおきアフタヌーン最終回。次回からは「にじくら〜笑顔とトークと、音楽と」と改めて皆様に音楽をお届けします(2月)



PHOTO 10 九州公演2023。広上淳一マエストロ、佐藤晴真さん、小林愛実さん、山口修さんとご一緒しました(2月)



PHOTO 11 大牟田公演の翌日、日本フィルと大牟田市の推進提携に基づく室内楽を菅原病院内「てとてのたまご」で行いました(2月)



# サポート

2022年度も、法人寄付、個人寄付共に多大なるご支援をいただき深く御礼申し上げます。

日本フィルは、通常、年間約150回のオーケストラ公演、年間55回を超える室内楽の学校・施設訪問、創作ワークショップ等のエデュケーション・プログラム、全国各地で長年継続する地方公演や杉並区を本拠地としての活動等、様々なコミュニティを活性化させる活動を継続的に展開しています。コロナ禍によりこれらの社会性活動を安定的に開催できない事態が長期化している中、特定のスポンサーを持たない日本フィルがこれらの活動を継続・充実させるためには、経済基盤を安定させることが最重要課題と位置づけ、基礎収入の増収、基礎支出の削減に引き続き務めてまいりました。

これからもより充実した、そして社会の要請におこたえできるオーケストラを目指してまいります。引き続き皆様のご支援をお願い申し上げます。

## <個人ご支援>

個人の皆様からは「日本フィル・パトロネージュ(個人寄付会員)」「日本フィルハーモニー協会」「日本フィル・サポーターズクラブ」といった様々な会員制度によるご支援をいただきました。

## <企業・団体ご支援>

企業法人・団体の皆様からは「特別会員」「九州特別会員」(いずれも寄付会員)をはじめ、継続的なご寄付をいただくと共に、活動全般に対するご寄付もいただきました。また、演奏会等の事業では、東京定期演奏会をはじめとする主催演奏会への協賛(冠協賛、広告協賛)をいただきました。

### 2022年度 協賛企業ご芳名

エレコム株式会社／鹿島建設株式会社／社会医療法人 河北医療財団 河北総合病院／株式会社京王設備サービス／京王電鉄株式会社／株式会社興建社／山九株式会社／全国保証株式会社／大栄不動産株式会社／株式会社チャイルド社／千代田化工建設株式会社／THK株式会社／株式会社日清製粉グループ本社／根本特殊化学株式会社／ハウス食品グループ本社株式会社／非破壊検査株式会社／丸美屋食品工業株式会社／三井不動産株式会社／三菱製紙株式会社／三菱UFJニコス株式会社／武蔵商事株式会社／株式会社ヤクルト本社／ローム株式会社

※ご寄付を賜りました企業ご芳名はp18-19に掲載致しました。

## <補助金・助成金・事業委託、共催>

2022年度も「文化庁文化芸術振興費補助金(文化芸術振興活動活性化事業)」対象団体として採択され、東京定期演奏会、横浜定期演奏会に補助金をいただきました。公的補助のほかにも各種助成団体からも多大な助成をいただきました。さらに日本オーケストラ連盟を通じて三菱UFJフィナンシャルグループからご支援をいただきました。

<公的補助>文化庁「ARTS for the future!(コロナ禍を乗り越えるための文化芸術活動の充実支援事業)／独立行政法人日本芸術文化振興会「文化庁文化芸術振興費補助金(劇場・音楽堂等機能強化推進事業(劇場・音楽堂等間ネットワーク強化事業))、(文化芸術振興活動活性化事業)」／令和4年度日本博イノベーション型プロジェクト 補助対象事業(独立行政法人日本芸術文化振興会／文化庁)／公益財団法人東京都歴史文化財団 アーツカウンシル東京／経済産業省・文化庁「J-LODlive2」

<民間助成>公益財団法人朝日新聞文化財団／公益財団法人アフィニス文化財団／公益財団法人三菱UFJ信託芸術文化財団／公益財団法人ローム ミュージック ファンデーション／渡辺翁記念文化協会(50音順)

<事業委託>文化庁「文化芸術による子供育成推進事業」／文化庁「戦略的芸術文化創造推進事業」

## <音楽音源事業並びに物品販売>

コンサート会場に来られない方々にも演奏を届けるために行っているCD等の録音物の制作と販売、普及事業では、会場での物品販売コーナーの設置が制約はあるものの復活できました。しかし今年度も引き続き、会場での売上は苦戦しました。

一方、新レーベル「JPO RECORDINGS」によるCD制作は、「ラザレフ: ショスタコーヴィチ第10番」が『レコード芸術』特選盤に選ばれるなど、レーベルの評価が高まりつつあります。

### ● 2022年度の制作アイテム

演奏会のライブ録音CD／配信「JPO RECORDINGSレーベル」計3点、「協会(非売品)」1点、オリジナルTシャツ、オリジナルカレンダー(全国カレンダー展入選)。配信77タイトル(2022年度新規3タイトル)。

2022年度グッズ・音源販売収入 14,849,097円

# クラウドファンディング未来ショッピングよりご支援いただいた皆様

(50音順・敬称略)

青森県八戸市の村さん	岡本 高行	佐々木政伸	徳島 勝幸	松本絵里子
芥川美津男	岡本 武	佐藤 尚	豊多摩通運株式会社	松本ちひろ
浅川 博伸	小川 宏一	佐藤 義博	ながいはるな	水谷 香苗
安達 司郎	小川 悠一	佐藤 孝弥	中尾 剛	宮本 陽子
あっくん	荻原 達雄	佐藤 俊明	永島 勝美	みやもとれいこ
渥美 博行	奥山美穂子	佐藤美智子	中島 達己	村上
穴澤 龍治	尾崎 恭一	志波 幹雄	中園 和博	村上 英志
阿部 明典	小野寺 充	清水 理子	永田 浩純	村本 幸隆
阿部 俊彰	織地 俊幸	下村 行男	名古屋グリーン カントリークラブ	茂木 強
阿部 和代	柿沼 威司	城島 輝臣	奈良橋はるか	森 敏明
阿部 洋己	覚幸香代子	白柳 和男	なりたん	森岡 真功
天井 治	葛西 英篤	城村 将也	南部 洋一	森 哲夫
天城 鞆彦	柏崎 誠	菅原 修	新倉 啓介	森元 伸一
荒木 博仁	加藤 みほ	菅原ゆみこ	西川 朋子	守屋 克洋
安藤公男、智子	門倉百合子	鈴木 将志	西村 文香	矢倉 邦彦
飯田 憲	萱場 基	栖原 謙介	西村 良子	安間 尚子
飯塚 明弘	賀来 俊	妹尾 直子	根本 祥子	柳谷 葉一
イガラシメグミ	川嶋 陽子	株式会社センゾー	野澤	山形 香
池田 博	川瀬 健治	宗 神子	橋本 周吾	山口 岳士
生駒 巖	河野 太	TAKASHI YAMAMOTO	パトス・コンサルティング・ ファーム	山崎 涼子
石垣 玲子	神田 文子	高須 幸雄	早川 明男	山下 朝人
石川 英利	菅野 治幸	高田 修	林 康江	山田 直美
石田 拓也	菊地 重人	高田 リサ	林 淳一郎	ヤマダカツヒロ
磯部 匠	北見 恭一	タカツマサノリ	林 祥太郎	山田 勝洋
一井 保	北村由紀子	高仲 裕樹	半田 正道	山戸 誠也
市川 眺	木下 盛弘	高根 和信	樋口美千代	nekomata775
一倉 徹	木間 裕	高橋 信喜	平井 翔大	山本 英明
一紀	楠 芳伸	高橋ふく美	平田 済	吉岡 秀樹
伊藤真理子	久保 京子	高松 哲夫	福井 雅洋	吉田 裕子
稲葉 順一	隈元 香里	竹下 裕行	福嶋 頼秀	吉永 円
稲葉 道男	倉橋 寿子	竹之内葉子	福田 亜紀	吉野谷 健
猪口 淳子	黒岩 邦義	武山 芳夫	福田美知代	李 庸行
猪野 裕英	古門美佐子	立石 吉識	藤木 拓磨	株式会社Rings
今里 讓	小島 宏章	田中 温子	船場ひさお	一般財団法人 WakuPro
岩川裕子・侑以	小島 浩彦	田中 敦也	船本 直夫	渡井 高広
岩崎 貞明	小島 光晴	田中 貴恵子	星 直樹	渡辺桂太郎
岩田 達明	児玉 和夫	津久井竜一	星野 浩良	渡辺千恵子
宇賀神裕子	児玉 直人	辻 晋也	星野 雄一	渡辺 俊樹
白居 正昭	小宮 厚子	土屋 栄	堀内 知行	渡邊 史信
内田 好彦	昆 隆寛	廿樂 彰子	榎川 裕美	
内山 達夫	雑賀 真	SOUNDTREEピアノ 教室 田中美香	増田 信行	
馬目 憲一	大塚 捺未	五月女 史乃	間瀬美穂子	
大塚 捺未	大橋 杉夫	坂本 真紀	松野 周治	
大橋 杉夫	大藤 裕康			

## ご寄付いただいた企業のみなさま

[ 東京特別会員、九州特別会員(一部個人含む)、活動へのご寄付他 ]

(50音順・敬称略)

株式会社IDホールディングス  
株式会社アイル  
アイング株式会社  
赤坂維新號  
あすか製薬株式会社  
株式会社アトックス  
株式会社アドービジネスコンサルタント  
株式会社有明新報社  
イーソリューションズ株式会社  
株式会社泉商会  
株式会社泉放送制作  
有限会社和泉屋  
磯野不動産株式会社  
稲貝興産株式会社  
稲畑産業株式会社  
井上歯科医院  
株式会社インフォーマート  
株式会社内田洋行  
内野株式会社  
宇部エクシモ株式会社  
株式会社AT  
ABCシステム株式会社  
株式会社エイブル&パートナーズ  
医療法人江上耳鼻咽喉科医院  
有限会社江口栄商店  
株式会社エヌエフホールディングス  
NGB株式会社  
エヌビーエス株式会社  
株式会社エムジーケイ  
株式会社エルイーテック  
税理士法人エルピーエー  
エレコム株式会社  
医療法人社団桜珠会可也病院  
株式会社大分銀行  
大分県医療生活協同組合  
株式会社大分放送  
大口酒造株式会社  
大隅ミート産業株式会社  
株式会社大場造園  
株式会社岡三証券グループ  
小川香料株式会社  
小野塾  
公益財団法人オリックス宮内財団  
株式会社カカココム  
公益社団法人鹿児島共済会南風病院  
株式会社鹿児島銀行  
鹿島建設株式会社  
鹿島建物総合管理株式会社  
鹿島道路株式会社  
株式会社カナック企画

株式会社 歌舞伎座  
株式会社ガモウ  
社会医療法人河北医療財団  
川北電気工業株式会社  
川谷医院  
看公税理士法人  
医療法人起生会林内科胃腸科病院  
北野建設株式会社  
キッコーマン株式会社  
キャノン株式会社  
キューピー株式会社  
医療法人共生会びろうの樹脳神経外科  
株式会社共同  
株式会社協和日成  
キリンホールディングス株式会社  
株式会社きんでん  
学校法人熊本壺湊塾学園  
株式会社熊本日日新聞社  
株式会社熊本放送  
医療法人九曜会こが内科こどもクリニック  
株式会社九曜社  
グリーン・サポート・システムズ株式会社  
久留米第一法律事務所  
グローブシップ株式会社  
京王重機整備株式会社  
株式会社京王設備サービス  
京王電鉄株式会社  
京浜急行電鉄株式会社  
医療法人敬和会大分岡病院  
株式会社小泉  
晃榮住宅株式会社  
医療法人弘恵会ヨコクラ病院  
株式会社興建社  
コーザイ株式会社  
甲宗八幡神社  
株式会社講談社  
生活協同組合コープかごしま  
生活協同組合コープみやざき  
株式会社小島新太郎商店  
医療法人五秀会末永産婦人科麻酔科  
医療法人こだま小児科  
株式会社コバヤシ  
コンパッソ税理士法人  
株式会社コトブキ  
株式会社コンサートサービス  
株式会社佐賀銀行  
薩摩酒造株式会社  
佐藤製薬株式会社  
三機工業株式会社  
山九株式会社

医療法人三成会藤善整形外科  
サントリーホールディングス株式会社  
三洋貿易株式会社  
医療法人CLSすがはら  
ジーエルサイエンス株式会社  
ジェネロ株式会社  
株式会社慈恵実業  
宍倉渉税理士事務所  
自然庵  
澁谷工業株式会社  
株式会社じほう  
清水建設株式会社  
シャボン玉石けん株式会社  
株式会社集英社  
医療法人秀康会ましきクリニック耳鼻咽喉科  
社会医療法人寿量会  
医療法人春回会井上病院  
浄土真宗本願寺派無量山西導寺  
ショーボンドホールディングス株式会社  
公益社団法人昭和会いまきいれ総合病院  
医療法人社団仁愛会中村医院  
株式会社シンケン  
株式会社進藤木材店  
新菱冷熱工業株式会社  
株式会社ジャックス  
株式会社ジンテック  
医療法人信和会  
杉山商事株式会社  
住友ベークライト株式会社  
株式会社スプリックス  
聖マリア病院教育・研修センター  
医療法人誠和会河野産婦人科医院  
株式会社セフティハウス  
全国保証株式会社  
税理士法人創研  
株式会社総本家黒田家  
第一倉庫株式会社  
株式会社泰秀  
大正製薬株式会社  
大同生命保険株式会社  
大日本除虫菊株式会社  
大隆工業株式会社  
大和製罐株式会社  
高砂熱学工業株式会社  
有限会社但馬屋老舗  
立花税務会計事務所  
千歳コーポレーション株式会社  
千代田化工建設株式会社  
株式会社千代田テクノル  
塚本總業株式会社

株式会社鶴屋百貨店  
ディアンドデパート株式会社  
DM三井製糖株式会社  
学校法人帝京大学  
株式会社T&Aマネジメント  
THK株式会社  
手島薬品会社  
株式会社テレビ熊本  
株式会社電通  
東亜建設工業株式会社  
株式会社東急コミュニティー  
東京海上日動火災保険株式会社  
株式会社東京交通会館  
東京都杉並区  
東京美装興業株式会社  
医療法人藤溪会藤野医院  
東洋熱工業株式会社  
株式会社戸高コーポレーション  
戸田建設株式会社  
トヨタカラー鹿児島株式会社  
株式会社トヨタレンタリース鹿児島  
株式会社永田音響設計  
株式会社永谷園ホールディングス  
医療法人なごみ会酒井医院  
株式会社ナミキ  
南洲税理士法人  
日総工業株式会社  
日鉄興和不動産株式会社  
株式会社ニフコ  
日本精工株式会社  
日本製鉄株式会社  
日本電子株式会社  
日本パーカライズング株式会社  
株式会社日本マイクロニクス  
株式会社ネイチャーズウェイ  
根本特殊化学株式会社  
パイオニア株式会社  
ハウス食品グループ本社株式会社  
株式会社白雲社  
株式会社博報堂  
迫 龍二  
ハナマルキ株式会社  
公益財団法人パブリックリソース財団azbilみつばち倶楽部  
パンパンフィック・カップー株式会社  
阪和興業株式会社  
東日本住宅株式会社  
東 義秀  
株式会社肥後銀行  
非破壊検査株式会社  
ひびき・パース・アドバイザーズ  
税理士法人ひまわりFC  
ひまわり音楽ホール  
株式会社ファミリーユ  
医療法人深川皮膚科

公益社団法人福岡医療団  
株式会社福岡ハイヤーサービス  
富国生命保険相互会社  
富士急行株式会社  
富士テレコム株式会社  
一般財団法人 藤本育英財団  
古河産業株式会社  
古川 康  
フンドーキン醤油株式会社  
株式会社別大興産  
合同会社ベルファーマシー  
株式会社ポーラ・オルビスホールディングス  
保険ネットワーク有限会社  
ホッカンホールディングス株式会社  
株式会社ポニーキャニオン  
ホンダカーズ佐賀株式会社  
本田技研工業株式会社  
本坊栄株株式会社  
前田 憲徳  
株式会社牧野フライス製作所  
税理士法人松本会計  
マネックスグループ株式会社  
株式会社丸井グループ  
株式会社丸の内よろず  
丸美屋食品工業株式会社  
株式会社三井住友銀行  
三井倉庫ホールディングス株式会社  
三井物産株式会社  
三井不動産株式会社  
株式会社三越伊勢丹アイムファシリティーズ  
株式会社三越伊勢丹ホールディングス  
三菱HCキャピタル株式会社  
三菱オートリース株式会社  
三菱ガス化学株式会社  
三菱地所株式会社  
三菱自動車工業株式会社  
三菱重工業株式会社  
三菱倉庫株式会社  
株式会社三菱UFJ銀行  
三菱UFJ証券ホールディングス株式会社  
株式会社南日本放送  
株式会社ミヤデン  
医療法人産科・婦人科宮原クリニック  
医療法人湊江堂油山病院  
社会福祉法人明澈会  
医療法人明徳会佐藤第一病院  
武蔵商事株式会社  
明治安田生命保険相互会社  
株式会社明和住販流通センター  
メッドサポートシステムズ株式会社  
株式会社メディアグラフィックス  
株式会社メルコホールディングス  
森社会保険労務士事務所  
株式会社ヤクルト本社

八代綜合法律事務所  
山崎製パン株式会社  
UBE株式会社  
ユウキフーツシステム株式会社  
医療法人友和会  
株式会社夢織  
横河電機株式会社  
医療法人よつば会今村小児科アレルギー科  
米持建設株式会社  
リガク・ホールディングス株式会社  
株式会社リョーサン  
株式会社Rings  
株式会社リンレイ  
株式会社LEOC  
社会福祉法人麗風会  
税理士法人れいめい  
株式会社レゾナック・ガスプロダクツ  
株式会社レゾナック・ホールディングス  
ローム株式会社  
社会福祉法人若楠  
渡辺医院

他 匿名

# パトローネージュ [個人寄付] 会員ご芳名

(2023年6月15日現在・50音順・敬称略)

会田 雅美 東京都	江口 和廣 東京都	川畑 雅義 東京都	須賀 克敏 神奈川県	徳田 陽一 東京都	広瀬 晴子 神奈川県	増田 文彦 神奈川県	元永 徹司 神奈川県	山下 芳広 北海道	渡辺 和子 東京都
浅野 純次 埼玉県	江口 麗子 東京都	河田 義宏 東京都	菅 千太郎 東京都	外山 雄三 東京都	深沢 茂実 神奈川県	松尾 東京都	森 稔樹 神奈川県	山田 敏之 神奈川県	渡邊規久雄 東京都
朝吹 英和 東京都	遠藤 滋 神奈川県	菅野 治幸 神奈川県	杉山 秀子 東京都	中尾 誠利 神奈川県	福井 英次 東京都	松田 譲 東京都	森 宏之 神奈川県	山田 宏己 東京都	渡邊 直 東京都
厚田 理郎 東京都	大上二三雄 東京都	菊池 和美 東京都	杉山 浩明 東京都	ナガオカケンメイ 東京都	福田 昭夫 東京都	松本 信義 東京都	森川 智之 神奈川県	山村 隆 東京都	渡邊 裕志 山口県
阿部 俊彰 神奈川県	大久保 昇 神奈川県	喜多毘久江 東京都	鈴木 昌子 神奈川県	中島 奈穂 東京都	藤井 裕一 東京都	三木恵美子 神奈川県	八木 一郎 山梨県	山村 美絵 東京都	M.K.
荒井 昇 東京都	大島 剛 埼玉県	北村 篤嗣 埼玉県	鈴木 祐二 東京都	中島美知子 東京都	藤沢 薫 東京都	三木 繁光 東京都	矢口 敏和 千葉県	山本 高稔 東京都	匿名42名
荒木 秀隆 東京都	大竹 広明 神奈川県	北村 裕 神奈川県	住野 公一 東京都	長瀬 雅則 東京都	藤本由紀子 東京都	峯島 茂之 東京都	矢倉 俊紀 東京都	横川 直 東京都	
荒蒔康一郎 東京都	太田 五郎 神奈川県	木村 恵司 神奈川県	関 兼英 東京都	中園 和博 東京都	藤原 真也 東京都	宮川 輝男 千葉県	谷野 剛 東京都	吉川 美保 東京都	
有江 純子 神奈川県	太田 達男 千葉県	桐本 明子 東京都	妹尾 絲子 東京都	仲田 喜義 東京都	古瀬 明弘 東京都	宮本 裕二 兵庫県	山上 典彦 東京都	吉田 知世 東京都	
有手 千麻 埼玉県	大塚 宣夫 東京都	草刈 隆郎 東京都	仙石 通泰 東京都	中西 泉 東京都	星 桂太郎 東京都	武藤 雄二 埼玉県	山口 幸子 東京都	吉谷恵美子 神奈川県	
安西祐一郎 東京都	大藤 裕康 埼玉県	久野 哲男 千葉県	宗 神子 大分県	永野 琢夫 東京都	前田 耿史 神奈川県	村上 純子 埼玉県	山口 仁栄 東京都	吉村 真幸 埼玉県	
安藤 光一 東京都	大森 京太 東京都	熊谷 朝子 東京都	染野 郁郎 東京都	中村 公一 東京都	前田圭一郎 千葉県	村上 洋美 東京都	山口 達之 長崎県	吉村 匡則 東京都	
飯田 桂子 東京都	岡本 晋 東京都	倉谷 宏樹 東京都	空田 幸徳 東京都	中村 禎良 東京都	牧野 澄夫 東京都	村上 泰郎 東京都	山口みどり 東京都	若林 昭子 東京都	
飯田 恵司 東京都	岡田 尚子 埼玉県	栗原真知子 埼玉県	高井 延幸 神奈川県	中本 逸郎 東京都	正木 信汎 東京都	持田 泰 東京都	山越 章弘 長野県	渡辺 敦郎 東京都	
飯田 憲 東京都	岡田 雅史 神奈川県	畔柳 信雄 東京都	高木 宏忠 東京都	那須 雄治 東京都					
家近 茂 東京都	奥林 群司 東京都	甲賀 一宏 埼玉県	高須 幸雄 東京都	棗 年紀・綾 東京都					
家近 信子 東京都	尾澤 弘久 神奈川県	好士崎稔子 東京都	高田 信子 東京都	新倉 啓介 東京都					
五十嵐重雄 東京都	尾上 洋子 東京都	胡口 靖夫 東京都	高橋 信喜 東京都	西澤 豊 東京都					
池浦 慧 東京都	小野寺けい子 岩手県	小林 和夫 東京都	武岡 哲郎 東京都	西村 敬子 京都府					
池田 博 東京都	小野寺健一 岩手県	小林 こずえ 東京都	竹中 富知男 東京都	西村 醇子 神奈川県					
池野 隆光 東京都	小幡 尚孝 東京都	小林 裕美 東京都	田中 稀一郎 東京都	日本フィルハーモニー協会所沢支部 埼玉県					
池谷 光司 東京都	小原 道生 東京都	小林 容子 東京都	田中 博幸 東京都						
伊佐山建志 東京都	折田 正樹 東京都	駒見 俊彦 東京都	田中 將介 神奈川県						
石澤 卓志 千葉県	風間 沙織 神奈川県	五味 康昌 神奈川県	田辺三基男 東京都	二村 英之 東京都					
石塚 邦雄 東京都	賀澤 裕三 福島県	酒井 伸 長野県	田村 一 山梨県	布村 清美 東京都					
石津 寿恵 東京都	鹿島 英裕 東京都	酒巻 英俊 東京都	田村 浩章 東京都	沼口 元彦 東京都					
石橋 秀雄 神奈川県	片貝 英重 東京都	定形 哲 神奈川県	塚本 和久 東京都	根本 直之 千葉県					
伊藤 貴博 東京都	片山 英二 東京都	佐藤 武男 東京都	塚本 美幸 東京都	野谷 文昭 東京都					
伊藤 好彦 東京都	桂 史子 東京都	佐藤 寛之 東京都	辻 雅夫 東京都	箱崎 一彦 千葉県					
伊藤 昌司 東京都	加藤 壹康 静岡県	佐藤 正昭 東京都	薦井 厚伸 東京都	蓮見 正純 東京都					
井上 俊信 埼玉県	加藤 丈夫 東京都	座間 淑美 神奈川県	津田 義久 東京都	濱田 尚人 東京都					
井上 直人 東京都	加藤ひろみ 東京都	澤井 敏雄 東京都	常石 博之 東京都	原 俊 千葉県					
井上 浩良 東京都	加藤 洋一 東京都	島田 精一 東京都	角田 峻一 東京都	原 幸男 静岡県					
岩瀬 順子 神奈川県	加藤 頼宣 東京都	島田 晴雄 東京都	積田 孝一 東京都	針谷 博史 東京都					
岩田 達明 静岡県	金子 修 埼玉県	清水 幸雄 東京都	d日本フィルの会	日高 好男 東京都					
上野悦子・陽子 東京都	金子 肇 千葉県	下河辺美知子 東京都	寺澤 佳代 東京都	平井 邦子 神奈川県					
植村 昭三 東京都	上條 貞夫 東京都	下田 英一 東京都	東京フロイデ合唱団	平田 邦夫 神奈川県					
宇賀神裕子 神奈川県	上條 淑子 東京都	生島 貴司 千葉県	東京都	平田 正 神奈川県					
臼井 潤 東京都	香山 和子 神奈川県	新庄真帆子 大阪府	東瀬 朗 新潟県	平林 直哉 東京都					
内村 恒彦 神奈川県	川合 孝一 千葉県	晋友会合唱団 東京都	時枝 直満 東京都	広瀬 勝貞 大分県					

# 日本フィルハーモニー協会 維持会員ご芳名

(2023年3月3日現在・50音順・敬称略)

青木 孝	加藤 明	佐々木忠義	武井 新	野中 和行	皆川 文弘
青木 隆	金本 順子	佐藤 雅道	武田 幸子	羽生 賢次	三好 敦生
赤星 弥生	神谷 薫	佐藤 安雄	多田 栄一	早川征一郎	民放労連関東地方連合会
荒井 隆志	萱場 基	澤口佳乃子	田中 諄	深沢 茂実	山下 芳広
有田 正治	岸田 正博	清水 浩憲	坪井 憲治	藤井 行雄	渡辺 勝次
石田 尚身	北宮千恵子	下山 泰彦	東保裕の介	藤川 寿彦	渡辺 政則
石田 英雄	木村 繁	菅原 章文	富澤 裕	藤村 文二	
伊藤 正明	倉田 茂	鈴木 重澄	富田 節子	古川 武志	
岩崎 貞明	蔵貫 義朗	鈴木 重行	永井 福枝	古瀬 明弘	
海野 尚久	小島 鈴枝	鈴木 富美	長沢 光子	本堂 毅	
大塚 宏二	斎木 典子	住江 慶子	永田 康	前島 景子	
小田倉 正	坂本 博志	隅田 真	中山 泰子	増田 文彦	
柏崎 和枝	相良 幸男	高津 正徳	野田 孝	松井 務	

- ◆ 創立指揮者 渡邊 暁雄 ◆ 首席指揮者 ピエタリ・インキネン
- ◆ 桂冠名誉指揮者 小林 研一郎 ◆ 桂冠指揮者 兼 芸術顧問 アレクサンドル・ラザレフ
- ◆ 名誉指揮者 ルカーチ・エルヴィン ◆ フレンド・オブ・JPO(芸術顧問) 広上 淳一
- ◆ 名誉指揮者 ジェームズ・ロッホラン ◆ 首席客演指揮者(次期首席指揮者) カーチュン・ウォン
- ◆ 客員首席指揮者 ネーメ・ヤルヴィ

ソロ・コンサート マスター

木野 雅之



©磯石一典  
Masayuki Kinno

ソロ・コンサート マスター

扇谷 泰朋



©磯石一典  
Taihou Sensu

ソロ・コンサート マスター

田野倉 雅秋



©磯石一典  
Masaki Tanokura

アシスタント・コンサートマスター

千葉 清加



©磯石一典  
Kiyoka Chiba

第1ヴァイオリン

伊藤 太郎



©磯石一典  
Taro Ito

第1ヴァイオリン

太田 麻衣



©磯石一典  
Mami Ota

第1ヴァイオリン

九鬼 明子



©磯石一典  
Akiko Kikuchi

第1ヴァイオリン

齋藤 政和



©磯石一典  
Masahiro Saito

第1ヴァイオリン

榊 渚



©磯石一典  
Nagisa Sakaki

第1ヴァイオリン

竹歳 夏鈴



©井村重人  
Natsuru Takekuni

第1ヴァイオリン

谷崎 大起



©磯石一典  
Daiki Taniyama

第1ヴァイオリン

田村 昭博



©磯石一典  
Shirohiko Tamura

第1ヴァイオリン

中谷 郁子



©磯石一典  
Ikuko Nakatani

第1ヴァイオリン

西村 優子



©磯石一典  
Yoko Nishimura

第1ヴァイオリン

平井 幸子



©uzawa  
Sachiko Hirai

第1ヴァイオリン

本田 純一



©磯石一典  
Junichi Honda

第2ヴァイオリン

遠藤 直子



©磯石一典  
Naoko Endo

第2ヴァイオリン

大貫 聖子



©磯石一典  
Seiko Oikawa

第2ヴァイオリン

岡田 紗弓



©磯石一典  
Sayumi Okada

第2ヴァイオリン

加藤 祐一



©井村重人  
Yuichi Katoh

第2ヴァイオリン

神尾 あずさ



©磯石一典  
Azusa Kamino

第2ヴァイオリン

川口 貴



©磯石一典  
Takashi Kawasaki

第2ヴァイオリン

佐藤 駿一郎



©磯石一典  
Shun-ichiro Sato

第2ヴァイオリン

末廣 紗弓



©磯石一典  
Sayumi Suwayama

第2ヴァイオリン

豊田 早織



©井村重人  
Violin  
Hayami Toyoda

第2ヴァイオリン

町田 匡



©吉田俊成  
Takanori Machida

第2ヴァイオリン

松川 葉月



©磯石一典  
Haruki Matsukawa

第2ヴァイオリン

山田 千秋



©磯石一典  
Chitose Yamada

客演首席 ヴィオラ

安達 真理



©磯石一典  
Makoto Ando

ヴィオラ

小俣 由佳



©磯石一典  
Viola  
小俣由佳

ヴィオラ

小中澤 基道



©磯石一典  
Motochika Ononaka

ヴィオラ

児仁井 かおり



©磯石一典  
Kaori Enoi

ヴィオラ

高橋 智史



©磯石一典  
S. TAKAHASHI

ヴィオラ

中川 裕美子



©磯石一典  
Yumiko Nakagawa

ヴィオラ

中溝 とも子



©磯石一典  
Tomoko Nakano

ヴィオラ

松澤 稚奈



©磯石一典  
Wakana M.  
viola

ソロ・チェロ

菊地 知也



©磯石一典  
Tomochika Kikuchi

チェロ

石崎 美雨



©磯石一典  
Mami Ishizaki

チェロ

伊堂寺 聡



©磯石一典  
伊堂寺聡

チェロ

江原 望



©磯石一典  
Egawa  
noz

チェロ

大澤 哲弥



©磯石一典  
大澤哲弥

チェロ

久保 公人



©磯石一典  
Kubo

チェロ

山田 智樹



©磯石一典  
山田智樹

<p>コントラバス</p> <p>鈴木 優介</p>  <p>鈴木 優介</p>	<p>コントラバス</p> <p>高山 智仁</p>  <p>Takayama</p>	<p>コントラバス</p> <p>成澤 美紀</p>  <p>Miki Narusawa</p>	<p>コントラバス</p> <p>宮坂 典幸</p>  <p>宮坂 典幸</p>	<p>コントラバス</p> <p>森田 麻友美</p>  <p>Mayumi</p>
<p>コントラバス</p> <p>山口 雅之</p>  <p>Masayuki</p>	<p>フルート</p> <p>齋藤 光晴</p>  <p>Mitsuharu Saito</p>	<p>フルート</p> <p>難波 薫</p>  <p>難波 薫</p>	<p>フルート</p> <p>真鍋 恵子</p>  <p>Keiko Manabe</p>	<p>オーボエ</p> <p>佐竹 真登</p>  <p>佐竹 真登</p>
<p>オーボエ</p> <p>杉原 由希子</p>  <p>杉原 由希子</p>	<p>オーボエ</p> <p>松岡 裕雅</p>  <p>松岡 裕雅</p>	<p>クラリネット</p> <p>伊藤 寛隆</p>  <p>伊藤 寛隆</p>	<p>クラリネット</p> <p>楠木 慶</p>  <p>楠木 慶</p>	<p>クラリネット</p> <p>照沼 夢輝</p>  <p>照沼 夢輝</p>
<p>クラリネット</p> <p>堂面 宏起</p>  <p>堂面 宏起</p>	<p>ファゴット</p> <p>大内 秀介</p>  <p>Shuhei Ouchi</p>	<p>ファゴット</p> <p>鈴木 一志</p>  <p>鈴木 一志</p>	<p>ファゴット</p> <p>田吉 佑久子</p>  <p>田吉 佑久子</p>	<p>ファゴット</p> <p>中川 日出鷹</p>  <p>中川 日出鷹</p>
<p>客演首席 ホルン</p> <p>丸山 勉</p>  <p>丸山 勉</p>	<p>ホルン</p> <p>伊藤 舜</p>  <p>伊藤 舜</p>	<p>ホルン</p> <p>宇田 紀夫</p>  <p>宇田 紀夫</p>	<p>ホルン</p> <p>信末 碩才</p>  <p>信末 碩才</p>	<p>ホルン</p> <p>原川 翔太郎</p>  <p>原川 翔太郎</p>

<p>ホルン</p> <p>村中 美菜</p>  <p>Minami</p>	<p>ソロ・トランペット</p> <p>オッタビアーノ・クリスト・フォリ</p>  <p>オッタビアーノ・クリスト・フォリ</p>	<p>トランペット</p> <p>犬飼 伸紀</p>  <p>犬飼 伸紀</p>	<p>トランペット</p> <p>大西 敏幸</p>  <p>Oishi</p>	<p>トランペット</p> <p>中里 州宏</p>  <p>中里 州宏</p>
<p>トランペット</p> <p>中務 朋子</p>  <p>中務 朋子</p>	<p>トランペット</p> <p>星野 究</p>  <p>星野 究</p>	<p>トロンボーン</p> <p>伊藤 雄太</p>  <p>伊藤 雄太</p>	<p>トロンボーン</p> <p>笠間 勇登</p>  <p>笠間 勇登</p>	<p>バス・トロンボーン</p> <p>中根 幹太</p>  <p>中根 幹太</p>
<p>テューバ</p> <p>柳生 和太</p>  <p>柳生 和太</p>	<p>ティンパニ</p> <p>エリック・パケラ</p>  <p>エリック・パケラ</p>	<p>パーカッション</p> <p>大河原 渉</p>  <p>大河原 渉</p>	<p>ハーブ</p> <p>松井 久子</p>  <p>松井 久子</p>	
<p>チーフステージマネージャー</p> <p>阿部 紋子</p> <p>ステージスタッフ</p> <p>長橋 健太</p> <p>森田 大翔</p>	<p>ライブラリアン</p> <p>鬼頭 さやか</p> <p>杉本 哲也</p>			

<p>理事長 平井 俊邦</p> <p>副理事長 五味 康昌</p> <p>専務理事 福井 英次</p> <p>常務理事 後藤 朋俊</p> <p>理事 中根 幹太</p> <p>石井 啓一</p> <p>遠藤 佐々木</p> <p>田村 浩</p> <p>戸所 ともみ</p>	<p>監事 上條 眞夫</p> <p>評議員 加藤 文夫</p> <p>評議員 青井 浩一</p> <p>青安 孫 康一</p> <p>石塚 村 邦</p> <p>石垣 川 清</p> <p>内海 堀 卓</p> <p>梶 浦 文</p> <p>河喜 多 崇</p>	<p>木村 保一</p> <p>久小 島 津</p> <p>野間 西 野</p> <p>上野 村 名</p> <p>菅 谷 直</p> <p>島田 晴</p> <p>阿部 大 野</p> <p>小島 網</p>	<p>恵司 隆一</p> <p>田村 精義</p> <p>津田 省</p> <p>野間 典</p> <p>村上 多</p> <p>名 譽 顧 直</p> <p>熊谷 晴</p> <p>島田 晴</p> <p>阿部 大 野</p> <p>小島 網</p>	<p>後藤 武田</p> <p>田邊 清</p> <p>山口 浅</p> <p>磯部 江</p> <p>及川 小</p> <p>荻野 賀</p> <p>須藤 小</p> <p>佐田 明</p>	<p>茂 隆</p> <p>伊藤 文</p> <p>三浦 浩</p> <p>石川 陽</p> <p>小川 智</p> <p>紀 文</p> <p>田 智</p>	<p>篠崎 水</p> <p>清水 山</p> <p>杉山 高</p> <p>榎村 中</p> <p>西谷 長</p> <p>藤田 益</p> <p>宗山 吉</p>	<p>みづ子</p> <p>香綾</p> <p>山崎 正</p> <p>橋本 祐</p> <p>中村 沙</p> <p>谷川 川</p> <p>田村 川</p> <p>府田 澤</p> <p>岸 澤</p> <p>山 岸</p>	<p>シニア・パートナー</p> <p>新井 康</p> <p>伊波 義</p> <p>永島 洋</p> <p>南 友</p> <p>柳山 哲</p> <p>青柳 泰</p> <p>赤井 一</p> <p>石井 啓</p> <p>伊藤 剛</p> <p>遠藤 大</p> <p>大 大</p>	<p>美 知</p> <p>金子 順</p> <p>本谷 和</p> <p>本川 秋</p> <p>川口 開</p> <p>田村 正</p> <p>小川 千</p> <p>小川 高</p> <p>小川 高</p> <p>小川 高</p> <p>小川 高</p> <p>小川 高</p>	<p>子 行</p> <p>行 宏</p> <p>一 城</p> <p>幸 伸</p> <p>仲 夫</p> <p>清 種</p> <p>司 子</p> <p>光 子</p> <p>洋 司</p> <p>理 実</p>	<p>田 立</p> <p>堂 富</p> <p>永 中</p> <p>奈 奈</p> <p>橋 切</p> <p>畑 平</p> <p>松 本</p> <p>三 宮</p> <p>三 好</p>	<p>沢 川</p> <p>阪 田</p> <p>川 田</p> <p>務 切</p> <p>本 井</p> <p>賀 島</p> <p>本 本</p> <p>武 三</p> <p>好 三</p>	<p>烈 和</p> <p>男子 尚</p> <p>代 尚</p> <p>生 尚</p> <p>朗 尚</p> <p>一 尚</p> <p>彦 尚</p> <p>洋 尚</p> <p>子 尚</p> <p>裕 尚</p> <p>巳 尚</p> <p>二 尚</p> <p>郎 尚</p> <p>平 尚</p>	<p>森 下</p> <p>山 科</p> <p>山 本</p> <p>渡 本</p> <p>進 辰</p> <p>辰 哲</p>	<p>茂 三</p> <p>子 夫</p> <p>夫 夫</p>
---	---	---	--	--	--	---	--	--	--	---	--	--	--	---	--

# 日本フィルの公益活動を応援してください

社会のより一層の発展にとって、文化の成熟は欠くことができないものです。  
日本フィルも、その一翼を担う存在として、社会的役割をさらに充実させてまいります。どうぞ温かいご支援をお願い申し上げます。

## [ 個人の寄付で応援する ]

詳細はこちら▶



### パトローネージュ (個人寄付会員)

寄付  
(1口・年額)

3万円	5万円	12万円
20万円	50万円	100万円

日本フィルの演奏活動、社会貢献活動にご賛同くださる皆様より、ご寄付を会費の形で頂戴する会員制度です。演奏会のご案内、プログラム誌へのご芳名の掲載などの特典があります。

### 日本フィルハーモニー協会

寄付  
(1口・年額)

一般会員5千円	維持会員2万円
他	

「日本フィル協会」は1973年の創設以来、「市民とともに歩むオーケストラ」日本フィルを物心両面で支え、地域で楽団員と協力して行うコンサート作りなどユニークな活動を行ってきました。会員と日本フィルをつなぐ会報『市民と音楽(季刊)』『とおんきごう』がお手元に届くなど特典があります。

### オンライン寄付

<https://japanphil.or.jp/support/fundraising>

日本フィルの「被災地に音楽を」ほか、多彩な活動を支えていただくために、温かいご支援を心よりお願いいたします。クレジットカードで簡単にご寄付いただけます。

### 遺贈、相続財産のご寄付

自分が亡くなった後の財産や遺産を社会に役立てて欲しいといった尊いご意思に応えるため、日本フィルは遺言によるご寄付(遺贈)や、故人から財産を相続された相続人の皆様からのご寄付を喜んでお受けして、オーケストラ活動を通じて社会活動に活かしてまいります。

## 個人の寄付は税額控除が受けられます!

- 公益財団法人日本フィルハーモニー交響楽団への寄付金は、税制上、税額控除の優遇措置が受けられます。
- 東京都・杉並区にお住まいの方は個人住民税の寄付金による控除の対象となります。
- 相続により取得した財産の一部または全額を寄付した場合、寄付した財産に相続税が課税されません。

\*詳しくは国税庁のサイトをご覧ください。

## [ クラウドファンディングで応援する ]

### 落合陽一×日本フィルハーモニー交響楽団プロジェクトVol.7

<https://readyfor.jp/projects/vol7>

2018年4月のVol.1公演より継続的に、「コンサートの聴き手、支え手、共鳴の輪を広げる」取り組みとしてクラウドファンディングに挑戦してきました。

2023年も、Vol.7公演のための資金調達とファン拡大のためにご支援を呼び掛けます。ご支援を通して、日本フィルの新機軸を拓くプロジェクトの仲間になっていただけますと幸いです。

プロジェクト  
ページ

ご支援の  
ページはこちら▶



期間:2023年6月2日(金)~8月25日(金)

## [ グッズを買って応援する ]

### Tシャツ/CD/コラボグッズなど

<https://japanphil.or.jp/goods>

オリジナルTシャツやCD、そのほかコラボグッズなどを販売しています。グッズの収益は日本フィルの演奏活動に役立てています。

詳細はこちら▶



## [ コンサートを聴いて応援する ]

### サポーターズクラブ 年会費 1口 1万円

<https://www.facebook.com.JPOsupportersClub>

音楽に関心をもつ皆様に「日本フィルのサポーター」として、日本フィルの活動をご支援いただくシステムです。招待券(年間2枚)のプレゼント、日本フィル主催公演チケット優先申込・ご優待(1割引)、会報誌・イベントのご案内などの特典満載。さらにお友達を10人ご紹介いただくと、定期会員券(半期)を進呈いたします。

\*ホームページからクレジットカードで直接申込みいただけます。

### 東京/横浜 定期会員

月に1度のサントリーホール、横浜みなとみらいホールで聴く贅沢な時間。S席年間会員(全10回)の場合、1公演あたり4,800円に! 1回券10回購入と比べると約40%お得です。

東京/横浜  
定期会員  
特典

- 特典① 専用指定席:会場にお客様の専用指定席ができます。
- 特典② 優先確保:次期シーズンのお席を優先的に確保します。
- 特典③ チケット振替可能:東京定期/横浜定期間でチケットの振替が可能です。ご都合によりご来場できない場合、東京/横浜定期演奏会を同月内の東京/横浜定期演奏会にお振替いただけます。
- 特典④ 優先申込:日本フィル主催公演を一般発売の1週間前からお申込みいただけます。
- 特典⑤ 1割引:日本フィル主催公演を1割引でお求めいただけます。(一部公演を除く)
- 特典⑥ ホテル割引:開演前・終演後はお近くのホテル(東京定期:ANAインターコンチネンタルホテル/横浜定期:横浜ベイホテル東急)にてつろぎの時間をお過ごしください。